

2008年(平成20年)7月24日 木曜日

チボリ・アウトレットモール案に自信

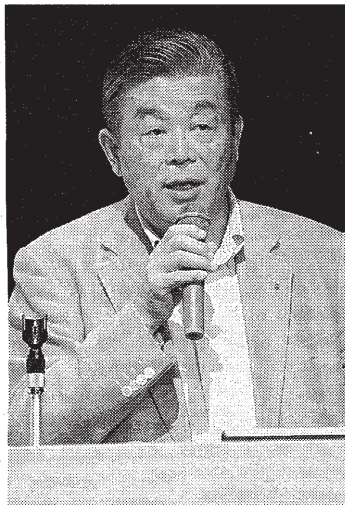
# 地代支援粘り強く要求

## ジ社・坂口社長 おかやま適塾で講演

倉敷チボリ公園の運営問題で、チボリ・ジヤパン社の坂口正行社長は二十三日、公園部分を縮小してアウトレットモールを導入する自らの案について、「将来の姿として自信を持っている」とし、八月下旬の取締役会に向け、岡山県と倉敷市に

粘り強く地代支援を求め、範囲から集客できる。岡山市柳町の山陽新聞社さん太ホールで開かれた、地元各界で活躍する人を講師に招く「おかやま適塾」で講演した。

坂口社長は「アウトレットモールは、広い



おかやま適塾で講演する坂口社長

駅前になぎわいが戻り、千人規模の雇用も生まれる」とメリットを強調。最大の課題は、縮小して維持する公園部分の地代負担とし、「二億円あれば維持できるとは、最後の調整努力をしている」と述べた。

十二月末までで地代支援を打ち切る方針を崩さない県に対しては、「現場の思いを無視している」と批判。「県の事業としてスタートした公園であり、やめるのなら県の責任で事業を終えろと宣言するべき」とした。(チボリ問題取材班)